

当面想定される主な検討事項（例）

○ 新しい時代の特別支援教育の目指す方向性・ビジョン

- 新しい時代の特別支援教育の目指す方向性・ビジョンをどう考えるか（例えば、能力・可能性や生涯学び続ける意欲を伸ばす教育、自立と社会参加に向けた教育、適性等に応じた教育の調和等の観点など）。
- また、我が国のインクルーシブ教育システムについてどのように考えるか。

○ 特別支援教育を担う教員の専門性の整理と養成の在り方

- 障害種、学びの場を超え、全ての学校、全ての教員に求められる特別支援教育に係る基盤となる教員の専門性とは何か。
- 現在国立特別支援教育総合研究所で検討している発達障害のある子供の教育に携わる教員の専門性の整理の状況を踏まえて、今後どのように対応していくか。
- 特別支援学校等の教員に求められる専門性（従来の障害種を中心に）について、どのように考えるか。
- 現在策定されていない特別支援学校教諭免許状に係るコアカリキュラムについてどう考えるか。

○ 障害のある子供たちへの指導の充実

- 新時代に対応した、個々の子供たちの障害に応じた指導の在り方はどのようなものか。
- Society5.0に対応した、特別支援教育のICT化（ICT機器の活用、個別最適化した学習の推進など）についてどのように考えるか。目指す目標や、その促進に向けて必要な基盤整備や研究開発はどのようなものか。

○ 小・中・高等学校及び特別支援学校における特別支援教育の枠組みについて

（資料3-3参照）

- 小・中・高等学校における特別支援教育の枠組みをどのように考えるか（特別支援学級における指導及び通級による指導の実態等を踏まえ、多様化する児童生徒の特性に応じた指導形態・指導体制の在り方について、平成17年の中央教育審議会答申で提言されている「特別支援教室」構想を含め、どのように考えるか）。
- 加えて、特別支援学校における教育の枠組みをどのように考えるか（多様化する児童生徒の特性に応じた指導体制・環境整備の在り方について、どのように考えるか）。

○ 幼稚園・高等学校段階における学びの場の在り方について

- 一 幼稚園、認定こども園などにおける特別支援教育の在り方、療育機関との役割分担、連携についてどのように考えるか。
- 一 高等学校段階における特別支援教育の在り方（高等学校、特別支援学校高等部）、高等専修学校やフリースクールなど1条校以外の機関との連携についてどのように考えるか。

○ 切れ目ない支援の推進に向けた教育と医療、福祉、家庭の連携について

(1) 総論

- 一 自治体における教育部局と福祉部局等の有機的な連携に向けて真に必要な施策はどのようなものか。
 - 一 切れ目ない支援における家庭の役割分担の明確化と、家庭との有機的な連携の確保をどのように考えるか。
 - 一 障害のある人の生涯にわたる学びの充実に向けて、教育と福祉や労働、医療等との連携の促進について、どのように進めるべきか。
- (2) 特別支援学校のセンター的機能の向上に向けた医療、福祉との役割分担、連携について
- (3) 医療的ケア児の就学促進に向けた医療、福祉、家庭の連携について
- (4) 就労支援や社会参画促進に向けた施策の在り方について
- (5) 切れ目ない支援の基盤となる特別支援教育行政の ICT 化の推進について